

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成24年3月21日現在

今月の重点活動

～栽培技術の向上を目指して～（アスパラ塾を開催）

「岐阜地域のアスパラガス産地拡大」の一環として、アスパラガス栽培学ぶ「アスパラ塾（主催JAぎふ）」の第4回目を2月28日に開催した。今回は「保温から春芽収穫まで」をテーマに一連の作業内容を農業普及課が指導した。また、現地において春芽の萌芽状況等を確認した。続いて3月15日に「立茎から摘心整枝・病虫害防除」をテーマに最終回となる第5回目を開催し、出荷調整までのポイントについて理解を図った。また、アスパラガス栽培アンケートを実施した結果、10名中7名が栽培するとの回答があり、面積拡大の動きとなる成果が得られた。



【写真 現地確認の様子】

～挑戦しようアスパラ栽培～（アスパラガス導入説明会）

3月1日JAぎふと農業普及課では、羽島市在住のアスパラガス栽培に興味がある方々を対象に導入説明会を開催した。足近、小熊、正木、上中、下中、竹鼻の各方面から関係機関合わせて26人が参加した。

説明会では、農業普及課から、アスパラガスのハウス立茎長期どり栽培のメリットを活かすための基礎的栽培技術の説明や導入を目指して準備する資金等、様々な事項について説明し、導入を呼びかけた。参加者は、ハウス栽培の管理や出荷先、導入経費等について、質問が相次ぎ有意義な研修会となった。

今後は参加者に向けて、平成24年度の「アスパラ塾」への参加を呼びかける。感触としては、導入を前向きに考えておられる方が多く、アスパラ塾への参加、面積拡大が大いに期待できる。



【写真 説明会の様子】

～岐阜市園芸振興会GAP運営委員会開催～

平成22年度に岐阜市園芸振興会の枝豆、大根、ほうれんそうの部会が合同でGAPへの取り組みを開始した。

本年度は、部会員の作業場点検を実施した。

（149戸／261戸）

また、いちご部会も本年度から参加となり、GAPの取り組みは広がっており、農業普及課でも取り組みに係る支援を行っている。



【写真 GAP運営委員会】

主要農作物の生産振興

■ 麦

(麦の追肥指導)

低温も続いてきたことから葉色はやや高く維持していたが、3月に入り徐々に茎立が始まってきており、生産者へ追肥作業を行うよう、講習会等で周知を行った。なお、羽島・本巣地域を中心に小麦の縞萎縮病が目立つようになってきた。発生状況の把握及び、収量等の影響調査を行う予定としている。

■ かき **各地で間伐検査を実施！（間伐指標の作成）**

今年度は2月以降の寒さが厳しい影響で、発芽期はまだ迎えておらず、生育的には平年より遅れる見込み。現地ではせん定作業が終了し、粗皮削りが盛んにおこなわれている。岐阜市では間伐検査を3月8日～22日まで実施し、間伐徹底による品質向上に努めている。

瑞穂市では前年度の不合格生産者を対象に間伐検査を2月22日に実施し、前年度の集計とあわせてところ、間伐達成率が88%となった。

本巣市真正地区では2月18日に間伐検査を実施し、検査不合格者の再検査への間伐指導を行った。結果約70%の間伐達成となったが、今後さらに指導を進めていく予定。

また、農業普及課で間伐実施のための目安となる指標を今年度中に作成するため、ほ場内の樹体配置図を作成して樹冠占有率を求め、次年度の指導に備える。

■ いちじく **「ぎふクリーン農業」に向けて！**

真正いちじく振興会では、2月23日に研修会を開催し、新年度に向けた栽培についての研修を行った。その中で、近年、おんさい広場（真正）への個人のいちじく出荷者が増えており、振興会としての付加価値をつけ、消費者へのPRを図るため、「ぎふクリーン農業」への登録を進めることとなり支援を行っていく。

■ いちご **(いちご中間検討会で後半戦に向けて)**

今年は、低温日照不足で収量がとれていないこと、春の高温期の過熟果による単価低下を防ぐため、各生産部会では中間検討会を開催し、今年前半戦の反省と今後の収穫適期と栽培管理について指導を行った。

(ぎふいちご加工品開発進む（農商工連携、6次産業化）)

いちご加工品の今年産の主力商品となる、いちごパウダーの生産が始まった。パウダー用のいちごは、収穫が増える時期に出る過熟果の対策として、過熟果いちごを加工用に回すことが目的となっている。農業普及課では、その仕組みづくりを生産部会とJAぎふと業者のスコーラボ社と協議してつくり、3月15日から荷受けを始めた。

また、そのパウダーを使った新商品「信長の赤」（岐阜市鶉(株)長良園）が、今月から首都圏を中心に販促を開始した。この商品は、濃姫いちごパウダーを使った焼き菓子で、長良園の看板商品として販売を開始した。

担い手の育成・確保

■ 集落営農組織・営農組合

(能郷白山の郷システム研究委員会で集落営農設立)

3月9日に委員会で能郷地区の集落営農を設立することで合意がされ、来年度の事業で新規作物導入等の検討を行い、今後も活動支援を行ってゆく。